

永井産業株式会社

「以和為貴(和を以て貴しと為す)」
生き残るための知恵と工夫

創業以来、和紙から洋紙、さらに板紙へと時代に沿って取扱い品目を拡大しながら、紙一筋に社業を発展させてまいりました。そして、創業200周年の節目となる2000年前後から多角化経営へと舵を切り、運輸倉庫業、製本業、化成品事業、不動産賃貸業、太陽光発電事業、6次化産業と様々な事業を展開しています。

商号	永井産業株式会社
本社	〒670-0948 姫路市北条宮の町385 永井ビル7F
創業年	享和元年(1801年)
設立年	1947年(昭和22年)
資本金	38,625千円
従業員数	77人
事業内容	紙類卸売、加工、製本、不動産賃貸、太陽光発電、運輸倉庫、農業、飲食店



本社



三代永井彦蔵時代の引き札



五代目永井一が昭和22年に設立した永井商店



享和元年(1801)に菊屋を創業した場所に建つ碑

企業の生い立ち

享和元年(1801年)、姫路の豪商大菊屋・永井五郎一のとこに奉公していた創業者・初代菊屋作兵衛が、のれん分けによって、姫路市東呉服町に①菊屋(まるじょう・さくや)の屋号で紙を商う店を構えたのが、弊社の始まりです。それから幕末、明治維新、二度の大戦を乗り越え、昭和22年6月、個人商店から法人組織に改組し、株式会社永井商店を設立しました。そして株式会社発足から2年後の昭和24年8月、紙以外にも意欲的に商いの間口を広げようと、社名を現在の永井産業株式会社へと改めました。社是である「以和為貴」(和を以て貴しと為す)をモットーに、柱となる紙の販売、そして他事業への取り組みを通して、地域社会に貢献していきたいと思っています。

「百年に一度の…」

アメリカの元FRB議長Greenspan氏が、リーマンショックを「百年に一度の危機」とする発言がありました。弊社の220年の星霜を振り返るとバブル経済の崩壊や阪神淡路大震災ではなく、「江戸時代から明治時代への大政奉還」と「第二次世界大戦後のゼロからの出発」が「百年に一度の危機」に当てはまるように感じます。それらの危機を克服し、不易流行を実践し「守るものは守り、変えるものは変え」時代の変化に対応しています。一つの事柄に一喜一憂することなく物事を長期的な視野で捉え判断することが重要であると感じています。特に近年は「始める勇気と撤退の勇気」が重要であると考えています。

創業300年に向けて

西暦2000年まで「紙一筋に200年」で頑張ってきましたが、少子高齢化による人口の減少、経済のグローバル化、デジタル化、地球環境問題の深刻化、個人情報保護等により紙の使用量減少は避けることができません。創業200年を機会に業態を変化させ、紙の販売に加え、運輸業・倉庫業・太陽光発電・テナント賃貸業・製本業・リース業・プラスチック販売・酒類販売等、会社の事業領域を拡大し、紙販売の全盛期の売上100億円には遠く及ばないものの最終利益はキープしています。今後、国内情勢を鑑み、経営の軸足を「規模の経済から範囲の経済」へと方向を切り替え、次の100年に向けた経営を進めたいと思っています。



ロジスティクス倉庫

since 1801